

(令和3年9月06日)

< ワンポイントレッスン (実践) >
(投資部門別売買動向)

投資部門別売買動向については、昨年6月にコメント。その時は、外国人投資家の順張り、個人投資家の逆張りについても触れました。

20年1月以降(コロナショック時)、外国人投資家が継続して日本株を売り越したのに対して個人投資家や事業法人が買い越しました。昨年20年11月～今年3月にかけての上昇波動では、外国人投資家は通して買い越したのに対して、当初11月～12月は個人投資家が売り越し、翌21年1月～3月は、投資信託、金融機関が売り越しました。

なお、下表は週末日付ベースで3か月毎の合計、直近21年7月から8月は2か月です。

投資部門別株式売買動向・金額(二市場、第一部・第二部)

<証券会社を除く委託内訳>

(単位: 億円)

21.09.03 作成 日付	期 間	個 人	海 外	法 人(その他法人を除く)			(金融機関の内
		現物:信用	投資家	投資信託	事業法人	金融機関	信託銀行)
	※21/ 7.2- 8.27	4,629	-6,604	1,012	5,078	1,905	2,971
2021年	21/ 4.2- 6.25	8,058	2,981	-1,781	2,352	-803	883
四半期	21/ 1.8- 3.26	-2,407	11,428	-12,124	-2,306	-31,213	-25,185
2021年間計							
	20/10.2- 12.30	-21,768	23,557	-5,316	-1,154	-2,950	383
2020年	20/ 7.3- 9.25	-2,057	-12,254	-8,732	-1,278	2,937	4,295
四半期	20/ 4.3- 6.26	-1,591	-18,463	-5,285	2,342	5,746	9,160
	20/ 1.10- 3.27	16,648	-26,487	-4,732	12,836	7,055	2,557
2020年間計	20/ 1.10- 12.30	-8,769	-33,647	-24,065	12,746	12,788	16,395
	19/10.4- 12.30	-20,271	23,071	-6,634	8,219	-10,198	-6,235
2019年	19/ 7.5- 9.27	-8,583	-12,726	-4,647	13,447	1,574	2,292
四半期	19/ 4.5- 6.28	-6,763	6,786	735	11,518	240	3,262
	19/ 1.4- 3.29	-7,516	-25,085	-1,064	8,686	-4,032	580
2019年間計	19/ 1.4- 12.30	-43,113	-7,954	-11,610	41,870	-12,416	-101
	18/10.5- 12.28	5,597	-17,022	9,984	10,508	2,783	5,742
2018年	18/ 7.6- 9.28	-13,032	-2,267	-1,178	3,266	-1,278	1,248
四半期	18/ 4.6- 6.29	-13,142	-11,982	-1,249	6,007	-381	3,418
	18/ 1.5- 3.30	16,880	-26,172	6,615	5,927	3,523	4,661
2018年間計	18/ 1.5- 12.28	-3,697	-57,443	14,172	25,708	4,647	15,069

GC Hello Trend Master のデータを用いて作成

21年4月～6月は、長期のレンジ内相場となり取引が少なく、各投資部門も買い越し・売り越し幅が縮小する珍しい状態となりました。ただ、ここにきて収束度の行過ぎ解消、TOPIX の'89年高値に対する戻り高値更新など、ボラティリティの高まりを示唆する動きもあり、波動形成となれば初期の各投資部門の動向をみておきたいところです。

(了)